

八丈島 水産だより

1月号

2007



ブーゲンビリア



日の出(底土)

あけましておめでとうございます。今年もよろしくおねがいたします。

八丈島では、お正月用に神主さんに新しく切っていただいた御幣(右図)や、しめ縄などで神棚を飾り、その年の家内安全や豊漁を祈願します。新年の行事が終わると、漁師さんたちは船の整備を行い、2月から始まるトビウオ漁や、カツオなどをねらった曳き縄漁に備えます。



■平成18年の主な出来ごと

①カツオ漁とムロアジ漁

昨年はカツオの来遊が遅く、カツオ漁で年収の半分ほどを稼ぐ八丈島の漁業者にとっては大変な年でした。また、ムロアジは、漁期の始め、サイズが小さ過ぎ、くさや加工屋さん泣かせでした。

②イルカ・磯焼け

釣り上げた魚をイルカやサメに取られる漁業被害や、テングサなどの海藻が水温が高まることなどでなくなってしまう、「磯焼け」の影響が八丈島でも深刻になりました。



③初のトロリング大会開催される

東京都では、東京海区漁業調整委員会の承認を受けた釣り大会等のイベントでトロリングが行うことができるようになりました。八丈島ではこれを受け、都内で初めてのトロリング大会を開催しました。

④地産地消の取り組み

漁協女性部による、島内外の学校給食に水産物の提供や、朝市開催の取り組みが進みました。



■マグロをめぐる国際的な動き

今、世界的にマグロ類の漁獲規制が強まっており、海外からたくさんマグロを輸入している日本でも、マグロの値段が高くなり始めています。八丈島ではキハダ、ビンチョウなどのマグロが多く獲れますが、これまで値段の安いビンチョウは、あまり利用されていませんでした。しかし、これから輸入量が少なくなり需要が高まれば、島外への出荷が増えることも予想されます。



■魚礁を設置しました



作業船

沈設開始

先月号でお知らせした魚礁の設置が終わりました。魚礁の設置はクレーンのついた大きな作業船(左図)で行いました。12月は海が荒れることが多い時期ですが、今回は天候に恵まれ、予定していた12月の5日、6日に無事作業を終えました。

東京都八丈支庁産業課 TEL04996-2-1113

